

平成 20 年 3 月 学士学位記授与式 (2008. 3. 25)

卒業生総代答辞 歯学部 中西恵美

仙台特有の春の強い風が街を駆けぬけ、また あの新緑の輝く美しい季節が巡ってこようとしています。

本日は、井上明久総長をはじめ、多くの先生方並びに関係各位の方々のご臨席を賜り、このように盛大な学位記授与式を挙げていただきましたこと、卒業生を代表し深く感謝申し上げます。



私達がこれまで充実した大学生活を送ることができたのは、先生方をはじめ多くの皆様に支えられていたからに他なりません。

昨年創立百周年を迎えた東北大学の開学以来の理念である「研究第一主義」「門戸開放」「実学尊重」のもと、熱心に御指導、御鞭撻下さった先生方、脈々とその精神を受け継いできて下さった先輩方、その他多くの方々のお力添えのおかげであると感じております。

そして、いつも温かく見守ってくれた家族、ともに学びともに励ましあった友人達に支えられて無事卒業を迎えることができました。

本当にありがとうございました。

思い起こせば、平成 14 年の春、私は期待と不安を胸に本学歯学部に入學いたしました。以来 6 年間、恵まれた修学環境の中で多くの分野について学んできました。入学当時は専門分野である歯学を学ぶ時間は少なく、ほとんどが一般教養科目であったことに疑問を持つこともありましたが、学年が増し、高度な専門分野を学ぶにつれ、ようやく一般教養科目を学んだことの重要な意味が理解できるようになりました。川内北キャンパスで学んだ幅広い知識は、互いに他の分野を補足し合いながら、全体としてひとつの大きな自らの「知の財産」となり、一つの事象に対しても深い理解、多岐にわたる見識を得る礎となり、私を支えてくれました。

また、国や地域さまざまな環境で育った多くの人達と出会い、学部の壁を超えてともに

学ぶ中で、自らが主体的に考え、実際に行動を起こす力を養うことができたと感じております。

私はこれから歯科医師として社会に貢献していくこととなりますが、少子高齢化や地域格差などのさまざまな変化をみせる時代の中で、歯科医師として今何をしていくべきかが問われているものと考えます。確かな知識や技術だけではなく、個々の患者さんにとって最良かつ科学的根拠に基づいた治療方針を見極め選択していく、いわゆる「根拠に基づく医療」を行っていく上でも、6年間で養ってきた洞察力や分析力、統合力が必要とされます。また、口の中の状態から患者さんの全身状態や生活環境などを広く見渡す能力を持つとともに、人を思いやり慈しむことのできる心豊かな人間でなくてはなりません。いかなる環境、いかなる時代においても歯科医療、口腔保健および社会福祉に貢献できる歯科医師を目指し、尚一層の努力を重ねる所存であります。

これから私達はそれぞれの道へと進みますが、東北大学で学び培ってきた精神、技術など多くのことを、今度は社会に対して十分に還元できるよう、より一層の研鑽を重ね、今まで支えてきて下さった多くの皆様や世界、そして未来のため、不断の努力を惜しまず、その発展に貢献していきたいと思っております。

芽吹き始めた新緑が凜と背を伸ばして光を集めるように、私達も胸を張って果敢に、そして同時に冷静・柔軟な姿勢を持って、己の進む道を信じ、日々精進してまいります。

最後になりましたが、創立百周年を迎えた東北大学の次なる百年に向けた益々の発展と飛躍、皆様方の御活躍と御健勝を祈念いたしまして、答辞とさせていただきます。

平成20年3月25日

卒業生総代 歯学部 中西恵美